

午後 試験

問 1

問 1 では、リスク対応計画策定時の、予防処置及びリスク対応活動の実践力について出題した。予防処置の具体的な内容を問う設問 1 や、リスク管理表からリスク対応活動の優先順位を判断する設問 3 の正答率は高かったが、プロジェクトの置かれた状況からリスク要因を探り出す設問 2(1)や、予防処置の目的を解答する設問 2(2)の正答率は低かった。

設問 2(1)のプロジェクト体制面のリスク要因への解答として、“新バージョンの開発経験はまだない”などのように、本文中の記述をそのまま引用している記述や、“進捗が遅れる”、“コストが増加する”という、結果として起こる現象の記述が目立った。“プロジェクト体制面のリスク要因は何か”という題意に沿った解答をしてほしかった。

設問 2(2)では、“双方が同じ資料で確認する”、“言葉で伝わりにくい部分を埋める”などの一般論的な解答が目立った。成果物を共通ファイルサーバに置くという予防措置のリスク管理上の目的を、本文の状況を前提として、具体的に解答してほしかった。

問 2

問 2 では、システム再構築における外部委託先の選定について出題した。要求仕様書の作成、委託先の選定方法の検討、委託先の選定の実施などにおける留意点については、おおむね正しく理解されていた。

設問 2(1)では、提案内容と提案価格を総合的に評価する選定方法のメリットを問うたが、“客観的に評価が行える”のように、入札方式による選定の一般的なメリットを記述した解答が見られた。設問の趣旨を理解し、提案内容と提案価格から総合的に評価を行うことの真のメリットが何であるかを、プロジェクトマネージャとして一歩踏み込んで考えてほしかった。

設問 3(1)では、“要求仕様書の記述内容に問題がないこと”、“評価項目や配点に問題がないこと”のように、今回の選定方法が妥当であったことを確認するために聞くべきことについての解答を求めたが、“要求仕様の理解度”のように、本文中の字句をそのまま引用する解答が見られた。評価結果のばらつきが大きかったことの真の原因が何であるかを分析するために確認すべきことについて、具体的に解答してほしかった。

問 3

問 3 では、プロジェクト推進方法の見直しについて出題した。外部設計終了後に再見積りをする理由や問題の解決のために行うエスカレーションに関する設問は正答率が高かった。

設問 1 は、低減しようとしたリスクについて問うたが、一部にリスクを低減することで得られる効果を記述した解答が見られた。問われている内容に沿った解答をしてほしかった。

設問 4(2)で問うた改善案は、Q 社への提案事項であることから、Q 社と協議して合意を得る必要がある内容である。一部に、M 社内部の作業について記述した解答が見られた。解答に当たっては、設問の状況に適した内容になっているか確認してほしかった。

問 4

問 4 では、開発とテストの体制を分離してリスクの軽減を図ったプロジェクトについて出題した。品質管理指標の基準値と許容範囲に照らした品質の判断と対処に関する設問 3(1)、(2)や、レビューの改善に関する設問 2(2)の正答率は高く、品質を管理するための基本はおおむね正しく理解されていた。

設問 1 は、プロジェクトマネージャが今回のプロジェクトを遂行する上で、品質向上、リスク軽減のために検討した諸施策に関して問うたが、(1)～(3)のいずれも正答率がやや低かった。特に、設問 1(3)において、“検証が正確かつ容易に実施できるか”という観点でレビューをさせたことの意図を見落とし、結合テストの工程短縮に至る理由を適切に記述できていない解答が目立った。テスト工程の改善につながる作業を上流の工程で実施することによって、テスト工程のリスクの軽減や、品質向上、工程短縮などの好循環を生み出すことができる場合がある。プロジェクトマネージャとして、プロジェクトの状況に応じた適切な方法を選択する実践力を身に付けてほしい。

全般的に設問や本文中に書かれている背景や条件を見落としした解答が目立った。プロジェクトマネージャにとって“何が問われているのか”を正しく理解することは、利害関係者の要求を適切にマネジメントするためにも必須のスキルである。5W1H を意識して本文、設問を読み、的確に解答してほしい。